

壁を破る

2023.1.4

年が明けた。また一つ歳を取った。昨日は誕生日だった。齢50を超えてから、ずいぶんと時が過ぎた。どうも実年齢と比べて、自分の考えていることが合っているのか、相応の思考が伴っているのか不安である。

過去は二度と戻ってはこない。頭ではわかっている。人は往々にして、過去の栄光にすがったり、挫折を引きずったりしてしまいがちである。所詮、過去は過去である。済んでしまったことにとらわれるのではなく、同じことを繰り返さないよう心がけるほうが大事であろう。

生きていく上で、「壁」があるとす。それは、対人関係から生じることが多い。職場の人間関係、近隣との人間関係、友人関係、男女関係など、自分をめぐる様々な関係の中で我々は生きている。そこから生じる「壁」は、次の方法で克服できると教わった。

今まで通りでは解決できない。人間は壁に突き当たったとき、この壁を破る手段はこれ以外にないと、今までの手段に固執しがちである。しかし、「窮すれば通ず」で、他の解決方法にも視点を向けるべきである。今のアプローチ以外にも道がないかと考え直してみると、意外に道が開け、なぜ今まで気がつかなかったのだろうと思うことがしばしばある。

今すぐには解決できない。壁を破るタイミングは早いに越したことはない。反対に、「急いては事を仕損じる」「急がば回れ」という諺もある。すべては時が解決する。また、よい話を伝えるのは遅くてもかまわないが、悪い話は即刻ひと声かけておくべきである。問題解決のためには、今すぐにやるべきことなのか、時間をかけてじっくりと解決を図るべきことなのか、タイミングを考えて行動することが大切である。

一人では解決できない。人間は、生まれたときも死ぬときも一人である。そして問題を解決するのも一人である。しかし、解決への道筋を探る際には、第三者の意見を参考にすることが大切である。決断は必要だが、「三人寄れば文殊の知恵」と諺にあるように、思いがけないヒントを得られることがある。

一人で思い煩うことはない。職場の上司や先輩、親兄弟、友人など、いろいろな人の意見に耳を傾け、熟慮を重ねた上で問題解決へと突き進むべきである。「案ずるより産むが易し」とは名言である。

以上は、年頭にあたり、肝に銘じたい内容である。「壁」の多くは自分自身でつくってしまう。そのことに気づかないことが多い。自分の前に破れない「壁」はないという思いで、この1年を過ごしていきたい。